ザンビア事業の１年次事業報告

結核予防会ザンビア事務所
現地代表　田中 悠太

結核予防会ザンビア事務所では「ルサカ郡における結核診断技術の向上を通じた結核対策プロジェクト」と題し，2023年3月～2026年3月の3か年の事業を行っています。本事業は外務省NGO連携無償資金協力と複十字シール募金によって支えられております。ご支援に対しお礼申し上げます。

ザンビアは，WHOによって世界21位の“結核高蔓延国”と“結核とHIVの重複蔓延国”に指定されています。年間5.9万人が罹患し，国の結核罹患率は319（人口10万対）と推定されており，これはHIVの蔓延（成人人口の10.8%）（UNAIDS 2022）により，主要な日和見感染症である結核感染者が増加したためです。結核患者の約40％はHIVとの重複感染者で，HIV対策と連携した結核対策が求められています。年間の結核患者のうち30％は診断されずに放置され，周囲に感染を広めていると推定されています。HIV蔓延や薬剤耐性が結核対策を困難にしているだけではなく，新型コロナウイルス感染症の流行中には受診控えによる結核対策の遅れも問題となりました。そうした中，ザンビアは2022年に発表された国家開発計画の中で，保健システム強化，感染症対策（結核，HIV/エイズ，マラリア）を掲げ，国を挙げた継続した取り組みを行うことを目指しています。結核に関しては，同計画の中で，感染率を50％，死亡率を75％削減することを目標としています。他方，重篤化してから医療機関を受診するケースが後を絶たないことから，結核の重症化と地域での集団感染を防ぐためにも早期発見と早期治療が急務となっています。

ザンビアは国土面積が約75万平方キロメートルで，日本の約2倍の大きさを誇り，事業対象地域であるルサカ郡はザンビア共和国の首都にあたります。ルサカ郡は人口約250万人，2021年にはルサカ郡だけで12,164名の結核患者が報告されました。この３か年の事業では，ルサカ郡マテロ地区，チレンジェ地区から総合病院を1施設ずつ，これらの病院に近接するコンパウンド（低所得者の集住地域）内の診療所から1施設ずつ合計4施設を選定し事業対象地としています。選定においては，結核患者数をもとに優先順位付けをしたうえで，他の諸外国団体による支援状況やエリアごとの住民構成および経済状況・所得水準，コミュニティ活動へのニーズや親和性を踏まえて総合的に選出しました。

本事業は３年間を通して，結核患者の発見と治療を質・量の両面から強化し，ルサカ郡全体の結核対策の向上に資すること目指し，①医療機器の供与（デジタルＸ線装置の供与，AIによる画像診断補助プログラムの導入），②各種研修を通じた保健医療人材の能力強化，③コミュニティでの結核ボランティア育成を通じた結核の予防や治療の強化を３つの柱として事業を展開しています。

1年次となる昨年度は，事業対象地域の1つであるバウレニヘルスセンターのＸ線室の改修工事を行いました。ザンビアにおいて，ヘルスセンターと呼ばれる医療施設は地域の小さな診療所にあたります。この改修工事は2年次に行うデジタルＸ線機器の供与に向けた下準備です。バウレニヘルスセンターのＸ線室は

Ｘ線撮影研修

当会が2011年に建設しましたが，時間が経ち，老朽化が進み，また，ザンビア国内の規制の変化による現行の基準に沿わなくなってしまったため，使われなくなってしまっていました。また，当時寄贈したX線機器も故障により使用不可となっていました。改修工事では，操作室の壁の厚さや高さが厳しく管理され，レントゲン技師をしっかりと守ることができるようになった他，撮影室のドアの隙間をしっかりと無くし，外部に放射線が漏れることがないように工事が施されました。今年度の事業では新たにデジタルX線装置が導入されますが，長く使用できるように導入と同時にメンテナンスの研修も行われる予定です。

これまではX線機器を用いた診断を受けるために，患者は遠く離れた大きな病院に向かわなければなりませんでした。これは，患者にとって費用と体調の面で大きな負担になっていました。しかし，このX線機器の導入により，適切なタイミングで適切な診断を行うことが可能となり，感染拡大の防止にもつながることを期待しています。

資機材の供与だけではなく，事業施設の医療従事者を対象とした各種研修を行っています。医者やクリニカルオフィサーと呼ばれる准医師，看護師に対しては，結核とその治療やレントゲン写真読影に関する研修を行いました。また，臨床検査技師，放射線技師に対しては顕微鏡やレントゲン写真撮影の研修を行いました。こうした研修を通じ，医療従事者の能力強化による結核の早期発見と感染拡大予防を目指しています。

更に，ザンビアにおける結核対策としてコミュニティボランティアが重要な役割を担っています。結核の治療は最低でも半年間服薬を続けなければならないことから，治療の継続が鍵となります。しかし，一旦症状が軽快すると，服薬を自己判断で中断してしまったり，連絡なしに転居したりすることで治療薬への耐性ができ，周囲へ感染の機会を広めてしまう可能性が高まります。コミュニティボランティアは家庭訪問や地域での啓発活動により，長い時間をかけ結核予防を行い，住民の代わりに喀痰サンプルを医療施設へ届けたりする役割を持ちます。1年次に結核に関する知識を得るための研修を行い，合計60名のボランティアを育成しました。2年次は育成したボランティアがより活発に地域での活動を行うことができるようにサポートを行って参ります。

このように結核予防会ザンビア事務所では，ハード面とソフト面両方からの支援を行うことで，包括的な結核予防活動に取り組んでいます。2008年にザンビアで事務所を構えてから15年が経ちましたが，未だに結核患者数が多く，一朝一夕には解決できない課題ばかりです。一歩一歩着実に，結核撲滅に向けて，現地のザンビア人職員や地域の住民と共に歩みを進めて行く日々を送っています。

工事中写真

改修工事完了